

2022年1月

■今月の特選句



行く年をスピード違反で逮捕せよ

花岡直樹

多忙だからこそできた句である。暇人には詠めん。仕事が終わってないのに新年が来てしまう。逮捕までしなくても職質で引き留めてもらわんと。



街を踏むゴジラの心地霜柱

峰崎成規

人間のDNAには様々な記憶が受け継がれている。遠い昔、恐竜のいた時代の情報も残っているはず。「ゴジラの心地」もまんざら虚構ではないかも。



散りたがる咲きたがり屋の山茶花は

吉川正紀子

山茶花は椿と違って花びらがバラバラに散る。咲いている時も艶やかだが散ってから周りを華やかにする。擬人化を上手く使った面白い句。

■今月の特選句



熱爛の冷める頃には泣き上戸

山田真佐子

俳句をひとつのドラマと考えるならば熱爛は名脇役。お前のせいじゃないけどなんでこんなに泣けてくるのかしら。ねえ教えてちょうだい、酒よ酒。



デパートに入口出口できき冬

山本 賜

コロナの世は、とにかく人の接触を減らさなきゃならん。一方通行が推奨され、入口出口を指定する店も増えた。寒々しいことだが慣らされる。



自動ドア枯葉に先を越されけり

久松久子

自動ドアが開くのを待っていたかのように枯れ葉がひらりと先に入ってしまった。さっと動いたつもりだが、身ごなしの軽さはとてもかなわんね。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

侘助やむかしむかしに戻れない ・・・今の世に咲くその名とどめて	井口夏子
北風やチャリ漕ぐ足が文句言う ・・・漕いで筋肉つけよと風が	細川岩男
文化の日なまけものにも日の恵み ・・・お天道様は慈愛の深し	村松道夫
目覚まし時計はオンからオフへ神の留守 ・・・年に一度のお寝坊月間	稲葉純子
人波を抜き手で泳ぐ福の笹 ・・・前進不可は立ち泳ぎして	竹下和宏
コロナ禍の地球もち上げ霜柱 ・・・オミクロン株予定になくて	森岡香代子
寒蜩思ひの丈の砂を吐く ・・・茹でてもらつて肝臓見舞い	吉原瑞雲
寒紅を引けば鏡に別の顔 ・・・紅一筋に顔の艶めく	桑田愛子
瞬間の容(かたち)をとらへ瀧凍る ・・・その瞬間は眼にもとまらず	小林英昭
コリコリの食感に凝るブロッコリー ・・・良い歯を持てば一味ちがう	上山美穂
目のやり場困ることなき冬に入る ・・・困った夏が今は懐かし	田村米生
小春日やひやとひ出稼ぎ区別せず ・・・人の俗世を温めゐる	田中 勇
木菟に返事のしかた学びたい ・・・ほうほうと聞きお目目ばちくり	土屋泰山

■今月の滑稽句

* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

夕黄葉奥の奥には鬼女住むらし
 大皿に秋をいつばい盛り付けむ
 着地する五線譜探してる楓
 成人式今日から大人酒煙草
 変換キー押してスタート初詣
 コロナ禍にパニックっている福達磨
 避寒といふはいち早く寝入ること
 かつ井をひつそりと待つ木の葉髪
 コロ助めショールに穴を空けにけり
 小春日の婆の誤解や御(お)ミクロン
 風に吹かれて熱爛ぐいとボブ・ディラン
 枯蓮や蓮根蓮田は駅の名に
 冬三日月何処へ行ったか見失ふ
 親方が現場で燃やす焚火かな
 めでたさや四世同道の七五三
 日向ぼこ何故かとなりはごみ置場
 冬は嫌いなれど限定チョコは好き
 一箱の卵が景品忘年会
 自家用にひと束残しハウス葱
 掛乞にすぐに払ふと誤魔化して
 好きなものなき掛乞は手強くて
 ハワイまで追ふ掛乞は大赤字
 星流る叶はぬ夢のあるばかり
 初雪や人が通り過ぐれば道
 初日の出過去も未来もなくて今日
 三寒四温に昨日は厚着今日薄着
 凧は風のちんぴらヒューヒューと
 陽だまりの電飾サンタ眠さうな
 通院す肩背な腰に懐炉貼り
 再考し遺書書き直す十二月
 コート脱ぎうつらうつらの暖房バス
 鳥インフルが朝礼の主旨水鳥は
 七五三のかんざしゆれる日和かな
 子を負うた母の背中が日向ぼこ
 ジャンボ機に大きな夢乗せ初飛行
 受験児よフジサンロクニオームナク
 初日の出朝風呂入り肩軽し
 アイシャドウ借りて髭書く新年会

相原共良
 相原共良
 相原共良
 青木輝子
 青木輝子
 青木輝子
 赤瀬川至安
 赤瀬川至安
 赤瀬川至安
 荒井 類
 荒井 類
 荒井 類
 井口夏子
 井口夏子
 池田亮二
 池田亮二
 石塚柚彩
 石塚柚彩
 石塚柚彩
 伊藤浩睦
 伊藤浩睦
 伊藤浩睦
 稲沢進一
 稲沢進一
 稲沢進一
 稲葉純子
 稲葉純子
 井野ひろみ
 井野ひろみ
 井野ひろみ
 上山美穂
 上山美穂
 梅野光子
 梅野光子
 梅野光子
 遠藤真太郎
 遠藤真太郎
 遠藤真太郎

予約する列に並ぶや重ね着て	大林和代
冬青空下界はごちやごちやしたままで	大林和代
術後の目気遣いながらの大嚏	大林和代
干柿を待つてましたとギャング鳥	小笠原満喜恵
眼裏にのこる月食の赤い月	小笠原満喜恵
ボージョレにほの紅くなりお母さん	小笠原満喜恵
人住まぬ旧家を守る山茶花よ	岡田廣江
凧の葉つば鳥が追ひかける	岡田廣江
口あけて福を吸ひ込む初雀	岡田廣江
針供養豆腐蒟蒻堅忍不拔	北熊紀生
親馬鹿で足りず奴隷や年果つる	北熊紀生
天高し「毒だ毒だ」とケーキ見る	久我正明
奥さんもバンダナを巻き稲の秋	久我正明
秋刀魚下げ秋刀魚顔なら女将さん	久我正明
力石三つ重ねて山眠る	工藤泰子
根深汁関西風にやんはりと	工藤泰子
節の無き一本葱の小口切	工藤泰子
冬木立空掃く箒のかたちして	桑田愛子
夜汽車ゆく私を乗せて雪の中	桑田愛子
葉牡丹の花壇ただいま満席に	小林英昭
手袋の遺失たいてい片一方	小林英昭
小春日の猫に貸しけり膝枕	壽命秀次
諍ひて妻は干布団ぶつ叩く	壽命秀次
古の如し胡桃を石で割り	壽命秀次
子守唄代りの祝詞七五三	白井道義
のめり込む足ふん張つて大根引く	白井道義
体育の苦手な少女落葉踏む	白井道義
息白く兄追いかける通学路	鈴木和枝
掛大根ラインダンスのくたびれて	鈴木和枝
種いっぱい抱えて鶏頭鉢を割る	鈴木和枝
今朝も畑へ足が向く自肅癖	鈴木和枝
つかまり立ち隣家の木犀捜してる	高田敏男
神無月御神酒の匂ふ巫女にあい	高田敏男
抜け穴や猫は胴長去年今年	高田敏男
飲兵衛や御神酒梯子で早三日	高田敏男
ギリシア文字少し学びし年の暮	高橋きのこ
暖房を入れて冬の蚊目覚ましむ	高橋きのこ
介護度の上がり喜ぶ木の葉髪	高橋きのこ

独居翁古女(ごまめ)の歯ざしり轟かせて
 皺不義理ふゆるばかりや去年今年
 木枯や金の無心をするやうに
 小春日や無い物ねだりはせぬように
 タクシーに変身小春の軽トラは
 尽き果てし婆のへそくり七五三
 うはばみが新走にもそつぽむき
 紅葉や木々は化粧がお上手で
 加齢の肌はかさかさ乾燥冬の音
 林檎食ふ老齢の歯に戦はせ
 実千両盗み喰ひたる鳥の影
 叩かれてはつと目覚める干蒲団
 今月も赤字に終はる冬夕焼
 あらいやだマスクをしてもブスはブス
 冬の蠅いやに呑気に行き過ぎる
 オレンジの毛糸の帽子の跡つける
 枯蟪蛄針金細工のごと不動
 会議終へ仮面を外すおでん鍋
 要望に添へぬサンタの予算かな
 噓して周りから人居なくなり
 雑炊や腹八分目を守られず
 縄跳びの縄回されて目をまわす
 むささびをよく見て見ればゲゲゲのゲ
 紅葉狩なにがとれると子に聞かれ
 音楽隊の優しい音色に银杏舞ふ
 クリスマス賑わせたくて飾りつけ
 湧水のタンクに溢れ眠る山
 新蕎麦や腹をなでつつ爪楊枝
 冬の蜂職場写真の友は逝き
 冬帽子マスクとセットで目出し帽
 着ぶくれにビール腹隠しもう一杯
 豆叩き三尺跳ねるものもあり
 老人が支へる村や注連作り
 「親ガチャ」の意味を検索着ぶくれて
 公園は都市を型抜きして小春
 冷え性の昂じてつひに雪女郎
 ティンパニは闘ふ楽器十二月

竹下和宏
 竹下和宏
 田中 勇
 田中 勇
 田中早苗
 田中早苗
 田中早苗
 田中晴美
 田中晴美
 田中晴美
 田中やすあき
 田中やすあき
 田中やすあき
 谷本 宴
 谷本 宴
 谷本 宴
 田村米生
 田村米生
 月城花風
 月城花風
 月城花風
 土屋泰山
 土屋泰山
 坪田節子
 坪田節子
 坪田節子
 長井知則
 長井知則
 長井知則
 花岡直樹
 花岡直樹
 浜田イツミ
 浜田イツミ
 浜田イツミ
 東 麗子
 東 麗子
 東 麗子

タクシーに襟巻忘れ齢のせい
 東屋の火鉢灰のみ火伏神
 欠けのある皿にパンのせ今朝の冬
 冬耕や畑に腹式呼吸させ
 どうしても気になる水鳥の脚の冷え
 空っ風懐いつも空つ穴(けつ)
 寒暁や血圧計が悲鳴上げ
 公約はたぶん赤色選挙の秋
 解禁の秋に久闊みつつほど
 値上げの秋海へ戻れや鰯雲
 繭玉の小判の纏れ解けぬまま
 墮落すら出来ぬ齢や年新た
 ウインクの仕方忘るる黒マスク
 内股に歩くにはとり居て小春
 ラグビーのゴールはH投げキッス
 芋を掘る絵本の「おおきなかぶ」のごと
 押し競饅頭押されて泣くな昼の月
 オリオンの下で素振りの手に豆が
 小春日や逢ひたき人は人の妻
 言ふまいぞ冬瓜野郎乙な味
 大粒の援軍として霰玉
 とつくりのセーター首を絞める気か
 ビタミンDを無料で入手日向ぼこ
 白鳥よ鳥に貴族のあるとせば
 アルキメデスの原理で初湯溢れさす
 毛糸編む私は恋の修行僧
 火傷して味の分からぬ蕎麦湯かな
 一人きり鮫鱈鍋は四名から
 閻魔帳代はりの日記始めかな
 擦り剥けば母の白息湿布葉
 遺伝子を組み換へ稚児の毛糸編む
 お散歩の犬に放尿され鶏頭
 熱々の巨大秋刀魚を大皿に
 句を詠めず加齢を歎く秋の暮
 新米は冷えてもうまいコシヒカリ
 飾り塩焦がす技あり紅葉鯛
 初霰火がごちそうと母は言う

久松久子
 久松久子
 日根野聖子
 日根野聖子
 日根野聖子
 細川岩男
 細川岩男
 南とんぼ
 南とんぼ
 南とんぼ
 南とんぼ
 峰崎成規
 峰崎成規
 椋本望生
 椋本望生
 椋本望生
 向田将央
 向田将央
 向田将央
 向田将央
 村松道夫
 村松道夫
 森岡香代子
 森岡香代子
 八木 健
 八木 健
 八木 健
 八木 健
 八塚一青
 八塚一青
 八塚一青
 柳 紅生
 柳 紅生
 柳 紅生
 柳澤京子
 柳澤京子
 柳澤京子
 柳村光寛
 柳村光寛
 柳村光寛

シアワセは炬燵と蜜柑とシャーベット
 コロナ禍をあれこれ語る炬燵かな
 漱石忌猫は炬燵で丸くニヤリ
 試験前スケートに行き滑り留め
 季語にせむマスクに冬の字をつけて
 カレンダー冬に向いて痩せてゆく
 換気扇掃除に最適なのよ小春日は
 つぎつぎとリストラされて落葉かな
 鎌倉も忘れてをりぬ七五三
 名をのこし花壇に消えただるま菊
 線香のかをり変へての師走かな
 ブーブーブー音出し比べとろろ汁
 至福時ゆずと遊びつ冬至風呂
 欲かかず枯葉のごとく齢をとる
 蓮根田変身をして枯蓮田
 赤貧は父をも凌ぐ年の暮
 一瞥にマスク忘れの愚を悟る
 考査前毛糸編む子をよしとする
 ベビーカーのひとつは小犬日向ぼこ
 園バスは定刻発車寒の町
 帰り花皺が再会ためらわせ
 着ぶくれやボタンが一つ弾け飛ぶ
 五つ六つ入れて炊きたる零余子飯

山岡純子
 山岡純子
 山岡純子
 山下正純
 山下正純
 山下正純
 山田真佐子
 山田真佐子
 山本 賜
 山本 賜
 横山洋子
 横山洋子
 横山洋子
 吉川正紀子
 吉川正紀子
 吉原瑞雲
 吉原瑞雲
 渡部美香
 渡部美香
 渡部美香
 和田のり子
 和田のり子
 和田のり子